

### 「韓国企業への日本的経営移植の可能性」

91301 鈴木 潔

「21世紀はアジアの世紀」とは、つとに聞かれるスローガンである。円高の影響で生産現場を賃金の安いアジア諸国に移転する日本企業は多く、アジア諸国との協調が重要視されている。アジア諸国のなかで距離的・文化的に最も近いといわれる韓国の経済は、主に工業製品の部品や資本財を日本から輸入し、北米に完成品を輸出する態勢にある。このため、韓国側の視点からは輸出が増加しても日本が上前を撥ねているといった不満感が存在し、日本と韓国の経済的な一体感をもつことは難しくなっている。

このような現状を是正するために、韓国の対日輸入構造の硬直性の改善が求められている。改善策として、1)韓国政府主導による中小企業の強化、2)資本財輸入先を日本から欧米に移行させる、3)日本企業との合弁企業を増加させる、4)日本の企業を移転させる、の4点が考えられる。我が国から国際的に競争力のある資本財政産技術を移転する方策は、3)および 4) であり、効率的な技術の移転と蓄積を促進するためには、日本の企業経営を移植することが有効であると考えられる。

本論文では、韓国企業経営の特徴を踏まえて、韓国への日本的経営の移植の可能性について考察している。韓国の社会的・文化的特徴として、1)企業家精神に富み、上昇志向が強いこと、2)個人主義志向が強いこと、3)家族や一族、血族など血縁関係を重要視すること、を歴史的背景と関連づけて論じている。また、韓国企業の従業員の特性として、韓国の社会的・文化的特徴の帰結としてタテの人間関係だけが強く、ヨコの人間関係は非常に弱い見られることなどを指摘している。以上の分析に基づき、一般に日本的経営の特徴といわれている、1)終身雇用的な雇用政策、2)年功序列の昇進制度と賃金体

系、3)企業別労働組合、4)合議主義的な意思決定のやり方、5)あいまいな個人の責任、6)生活共同体としての企業観、の各項目つき移植の可能性を検討している。著者は、この中で終身雇用的な雇用政策と生活共同体としての企業観については移植が可能であるとし、移植のための具体的方策を示唆している。

本論文は、以下の各章で構成されている。

#### 第1章 はじめに

本論文の背景、目的と意義、並びの概要について述べている。

#### 第2章 韓国企業経営の特徴

韓国企業の特徴につき、社会的、文化的特徴、および従業員の特性と意識の視点から検討し、日本と異なる考え方の源を探っている。

#### 第3章 韓国企業経営の現状と日本的経営

日韓企業の類似点と相違点を検討している。本論文での日本的経営を規定した上で、第2章の生物化学兵器に基づいて、日本的経営のどの部分が移植可能なのかを考察している。

#### 第4章 おわりに

本論文を要約している。

(3) その結果、本論文の主旨から見た今後の展望する視点が狭くなっている。

(4) 例えば、K社の事例研究の分析において、人事労務政策の問題の一つとして、人事考課制度批判的な考察が見られる。その場合、現在の働くものの価値観として、一般的には賃金よりも、むしろ、仕事の内容が優先するという、いわゆる自己実現が可能になるような人事システムが必要とされる傾向がある。しかし、本論文では、そこまで掘り下げた分析と考察が行われていないため、一面的な考察に終わっている。